

令和 7 年度ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（東北メディカル・メガバンク計画）
事後評価 評価コメント

評価課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
東北メディカル・メガバンク計画（岩手医科大学）	丹野 高三	岩手医科大学	教授

【評価コメント】

追跡調査や公的情報の収集ほか、第 3 段階の事業計画は着実に成果を上げており、多因子疾患のリスク回付、社会実装を視野に入れた企業との協働研究等、地域医療や社会への貢献に係る取り組みも進展している。合同運営協議会や各委員会の設置により、機構内における組織構成の役割の明確化が進み、東北メディカル・メガバンク機構等との連携体制が強化されていることも評価できる。

次期以降については、コホート調査以外の項目（試料・情報の利活用、外部機関との連携、キャリアパス支援、アウトリーチ活動等）についても、研究計画段階で定量的な目標設定の上、進めて欲しい。また、調査への参加者数や郵送調査の回収率が低下傾向にあることから、参加者の協力が得られにくい地域や年齢層などへの対策に取り組み、引き続き前向きコホートの充実を図って欲しい。さらに、独創的な事業テーマの創生も目指して欲しい。